

研究 成 果 報 告 書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		地球温暖化防止に関わる技術移転に関する研究			
研究テーマ (欧文) AZ		On Technology Transfer for Preventing Global Warming			
研究氏 代 表 名 者	カナ CC	姓)ニイザワ	名)ヒデノリ	研究期間 B	2003 ~ 2005 年
	漢字 CB	新澤	秀則	報告年度 YR	2005 年
	ローマ字 CZ	NIIZAWA	HIDENORI	研究機関名	兵庫県立大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		兵庫県立大学経済学部教授			
概要 EA (600 字～800 字程度にまとめてください。) 京都議定書で技術移転を担うのはクリーン開発メカニズム (CDM) である。本研究では、CDM に関して現在進行しているベースライン方法論認証のプロセスを検討し、ベースラインに用いられる情報の差異がもたらす途上国の経済厚生ならびに世界的な排出削減の効果を比較検討した。特に、現在、ほとんどの方法論が用いている方法には、経済インセンティブ上の歪みによって、一種のフィードバック効果が働いて、途上国にとってはプラスに働くかもしれないが、世界的な環境の面からはマイナスとなりうることを示した。 技術移転に関しては、次のような課題を中心に検討を行い、モデル化の作業を継続して行っている。 ① 技術移転が BaU 排出量に影響を及ぼして、それが途上国の CDM インセンティブを削ぐことになりかねない可能性。 ② CDM のベースラインとのかねあいで、望ましい技術移転を含むプロジェクトの優先順位が逆転する可能性があり、その意味を検討した。CDM 基準の厳格さと途上国の環境技術向上の間にトレードオフがありうる。 ③ 技術移転によって途上国全体としての排出削減費用が減少して、附属書 B 参加インセンティブがあがるといえるのではないか。 ④ 多数の技術の中から、どのような技術が移転されやすくなるかという側面を、制度と途上国、その他のインセンティブから比較する。 動学モデルとしては、CDM と技術移転の学習効果の大きさの関係が与える技術選択の関係を考慮する 2 期モデルをすでに構築している。このモデルを拡張して、多期間モデルとし、さらに排出削減義務を負うグループへの将来の参加について内生的に取り扱うことを現在行っている。この分析は、いわゆるポスト京都の途上国参加問題に対して有益な示唆を与えるであろう。					
キーワード FA	京都議定書	クリーン開発メカニズム	技術移転		

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	Ex-Post CDM Baselines, Self-Leakage and Counterproductive CDM							
	著者名 ^{GA}	H. Imai, J. Akita, H. Niizawa	雑誌名 ^{GC}	CAEA Discussion Paper 082 (Climate Policy に投稿準備中)					
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	

欧文概要^{EZ}

Clean Development Mechanism is the primary instrument of technology transfer in the Kyoto Protocol. We investigated proposed baseline methodologies and the approval process of them by the CDM Executive Board. We compared the effects on economic welfare and on total emission reduction of different information which are used to estimate a baseline. The information which is used to estimate a baseline by the most methodologies causes a perverse incentive, with a kind of feedback effect, and results in increased total emission although the host developing country gets benefit. Related to technology transfer, we are investigating some hypothesizes and developing economic models to analyze the subjects. One example of hypothesizes is that technology transfer decreases the cost of emission reduction in developing countries as a whole, then their incentive to be Annex I Parties is increased.